

荒川区立第六瑞光小学校

令和7・8年度 東京都教育委員会人権尊重教育推進校
令和7年度 研究・実践集録

研究主題

自他の大切さを認め、思いや考えを伝え合う児童の育成 ～話し合いを重視した他者理解を深める授業実践～

研究構想図

- ・日本国憲法、教育基本法、学校教育法
- ・学習指導要領
- ・東京都教育委員会の教育目標・基本方針
- ・荒川区学校教育ビジョン
- ・東京都人権施策推進指針
- ・東京オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例

学校教育目標

よく学び 仲良く
元気な 六瑞っ子

人権教育の目標

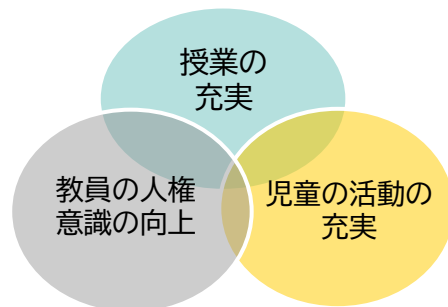
人権尊重の精神にのっとり、
助け合い支え合う児童を育てる

- ・社会の要請
- ・新しい教育の動向
- ・児童の実態
- ・家庭・地域の願い
- ・教職員の願い

人権教育の重点

- ・偏見や差別の不合理に気づき、人権を尊重する態度の育成
- ・基礎学力の充実を図り、相手の立場に立って考える態度の育成
- ・望ましい人間関係の形成、充実した学校生活の実現

研究の3つの柱



人権教育を通じて育てたい資質・能力

知識的側面

人権に関する基本的な知識

価値的・態度的側面

自分と他者との人権を
尊重する意識、意欲、態度

技能的側面

思いや考えを伝え合い、違い
を認めて受容する能力、協力的
に問題解決に取り組む能力

普遍的な視点からの取組

- ・自分の大切さ（自己理解・自尊感情）とともに、他者のよさや大切さ（他者理解）を認めることができるように指導する。
- ・他者との関わりや生命尊重などに関する学習を通して、豊かな人間性を育む。

個別的な視点からの取組

- ・児童の実態、地域の実情を把握し様々な人権課題に対する正しい理解と差別意識を解消しようとする意欲や態度を育成する。
- ・第5学年「食肉市場とわたしたちの暮らし」
- ・第6学年「新しい文化と学問」で人権課題「同和問題」を取り上げ計画的・系統的に取り組む。

普遍的な視点からの取組

特別活動の実践

第1学年 学級活動（1）「かかりかつどうをきめよう」

人権教育の視点 互いの係活動のよさを認め合う活動を通して、自他の人権を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする態度を育てる。



成果（○）と課題（●）

- 1学期の係活動の様子の写真を見せ、1学期の係活動を想起させることで互いに頑張ってきたことを認めることができ、2学期の係活動への意欲を高めることができた。
- 話し合いに参加する児童が限られていたため、発言が難しい児童への手だてが必要であった。



第2学年 学級活動（1）「かかりかつどうをパワーアップしよう！」

人権教育の視点 互いの係活動のよさを認め合う活動を通して、自他の人権を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする態度を育む。



成果（○）と課題（●）

- ほめほめカードやナイスアドバイスカードから、自分の活動のよさを認め他の係の意見を計画に取り入れようとしていた。
- 対話がうまくできなかった児童もいたので、どのような声掛けをすればよいかの工夫が必要であった。



特別の教科 道徳の実践

第3学年 『一さつのおくりもの』B【親切、思いやり】

人権教育の視点 相手の状況を考えて行動した主人公の温かい心や気持ちの変化を考える活動を通して、思いやりをもって親切に行動しようとする心情を育てる。



成果（○）と課題（●）

- 自分の考えを書く時間を十分に取ったり、多角的な考えが出る場面を話し合ったりすることで、相手や自分の考えのよさについての考えを深めることができた。
- 話し合いを行うことで、様々な考えから合意形成を図る中で答えを1つに決めようとするグループの姿があり、手だてが必要であった。



第4学年 『大きな絵はがき』B【友情、信頼】

人権教育の視点 悩みながらも友達だからこそ間違いを相手に伝えた主人公の姿を自分事として考える活動を通して、友達と互いに信頼し合い、助け合いながら、友情を深めていこうとする態度を育てる。



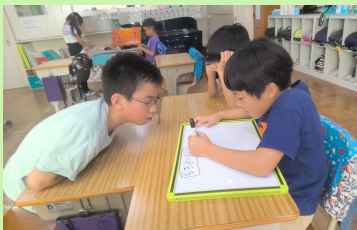
成果（○）と課題（●）

- 事前に「友達とはどんな人か」のアンケートをとり、自己を振り返るときに、「本当の友達とは」について、もう一度考えさせることで、これからの自分自身の友達関係についてじっくりと考えることができた。
- 話し合いの際、自分と違う考えに対して相手の考えを深く知るために問い返すことができるように、日頃から習慣付けていく必要がある。



すずらん学級 「だいモルずいこうしょうがっこう」

人権教育の視点 モルモットの命を大切にするために、様々な相手と考えを伝え合いながら飼育する活動を通して、協働することのよさや、命を大切にするについて考えを深めるとともに、自分も同じように大切にされてきたことに気づき、これからも命を大切にしようとする心情を育てる。



成果（○）と課題（●）

- ICT機器を用いて図に表しながら考えを共有できていた。
- 児童は話し合う内容について自分事として考えられていた。
- 自分の気持ちを言えない児童がいるため、手だてが必要であった。
- アイデアや思いの共有となったため、解決策について調べる時間を設定してもよかった。



個別的な視点からの取組

第5学年 総合的な学習の時間「食肉市場とわたしたちの暮らし」

人権教育の視点 食肉市場の役割とそこで働く人々の仕事について正しく理解するとともに、食肉市場や仕事に対する偏見や差別の不合理性に気付くことを通して、偏見や差別を許さない態度を育てる。



成果（○）と課題（●）

- 課題を決める際に関連図書を読んだことで、様々な視点からの考え方に触れ、自分が追究したい課題を見付けさせることができた。
- 食肉市場で働いていた方との交流を通して、存在を身近に感じ、自分たちにできることをより具体的に考えさせることができた。
- 食肉市場や食肉産業に関わる仕事についてイメージを膨らませる際に、情報が少なかったため考えが広がりにくかった。



第6学年 社会科「新しい文化と学問」

人権教育の視点 国学や蘭学等に関わる人物の働きなどについて調べる活動を通して、腑分けなどの優れた技術が医学の進歩など江戸時代の社会の発展を支えたことを理解させるとともに差別の理不尽さに気付かせ、偏見や差別をなくそうとする心情や態度を育てる。



成果（○）と課題（●）

- 映像資料、参考図書からの資料、写真など、児童の実態に合わせた資料を精選して使用したことで、児童が意欲的に読み取って考える力が付き、差別の理不尽さに気付かせることができた。
- 児童が個別的な視点として、じっくり考える時間が必要だった。資料提示の仕方を工夫し、時間配分を見直す必要がある。



研究こころのアンケート

今年度の研究主題、副主題について、「他者理解」「話し合い」「自己有用感」の3つの重点を設定し、年に4回、共有アプリケーションでアンケートを実施し、児童の実態把握の一助とした。結果をグラフにし、個人、学級単位で児童の人権意識の変容を見取ることができた。結果と担任の実感を結び付けることで、どのような指導が効果的であったかの分析を進めている。分析したことを日頃の指導に活かしていく。

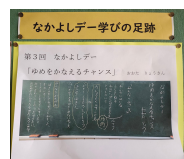
アンケート内容



児童の活動の充実

1 なかよしデー

月に1回、朝の活動の時間に行っている。子供たちの人権メッセージ発表会の「人権メッセージ集」の中から作品を1つ紹介し、作文を聞いて感じたことや考えたことを友達と交流し合っている。中学年、高学年では、「自分はどうか考えるか」という視点で感想を書き、交流することで考えを深めている。話し合ったことは、学びの記録として教室に掲示している。



2 朝の活動（六瑞タイム）

「話し合い」を重視して授業実践を行っていくために、今年度新たに始めた取組である。毎週1回、朝の時間に学級でテーマを決め、自由に話し合うことを楽しんでも行う活動である。円になって話し合ったり、自由に動き回って話し合ったり、その時間のテーマやクラスの実態によって工夫している。自然と話し合える環境が日常の授業にもよい影響を与えている。



3 全校による金管マーチングバンド活動

本校の金管マーチングバンドの活動は、昭和63年に結成され、39年目を迎えた。

「認め合い、励まし合い、教え合い」ができる活動として教育活動に位置付け、実践している。1・2年生はダンス、3年生以上でカラーガード・金管楽器・太鼓・鍵盤楽器に取り組んでいる。特別支援学級の児童は、実態に合わせて担当を決めている。

また、東京都小学生バンドフェスティバル フロア部門、なかよし祭り、社会を明るくする運動等の地域行事に参加することで、社会とのつながりを学んでいる。児童相互による演奏演技についての対話を通し、主体的に助け合い、支え合う児童を育てている。



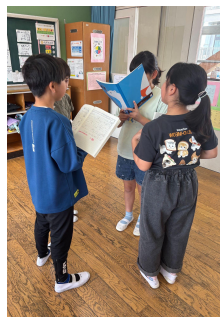
授業の充実

1 授業内（六瑞タイム）

どの教科等の授業でも年間を通して段階的に話し合いを実践している。初めの段階では教師が「六瑞タイム」の時間を設定し、発問に沿って話し合わせている。次の段階では、児童が問題解決に向けて必要に応じて六瑞タイムを活用し、話し合っている。

この2年間の研究で最終的に私たちが目指す児童の姿は、「児童自らがめあてや課題を基に話し合い、学習計画を立て、協同的な学習を行う」ことである。

課題解決のために、話し合いをどのような場面で活用すればより有効なのかを学び、思いや考えを伝え合って学びを深めていける児童の育成を目指している。



2 1組、すずらん学級での交流学習及び共同学習

本校では、1組と特別支援学級（すずらん学級）との交流学習や共同学習を学年、教科を問わず行っている。協力しながら学びを深める中で、互いを認め合い、理解を深めることができている。また、委員会、クラブ活動も一緒にいき、互いのよさを認め合うことができている。



3 地域を活用した学習

地域には、江戸時代に杉田玄白らが腑分けに立ち会ったことを記述した観蔵記念碑が残る回向院、義肢装具サポートセンター、皮革工場など、身近なところに人権課題の理解を深めることができる場所がある。回向院は6年生の社会科で、義肢装具サポートセンター、皮革工場は3、4年生の総合的な学習の時間で見学や体験活動を行い、学びを深めている。



教員の人権意識の向上

1 教員研修

教員も人権教育に関わる研修を受け、人権課題の正しい知識と理解を深め、人権感覚を向上させるよう努めている。

荒川区の人権施策の推進を図るための施設「荒川さつき会館」で荒川区の同和問題に関する講話を聞いたり、区内に残る皮革工場の見学をしたり、食肉市場へ見学に行き、職員の方から話を聞いたりしている。

また、区内の人権尊重教育推進校との相互参観プログラム、東京都の人権尊重教育推進校の研究発表参観も多くの学びとなり、一人一回以上参観している。



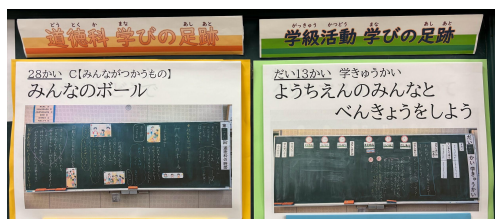
2 人権教育プログラムを活用した研修

校内では研究授業に加え、人権教育プログラム等の資料を活用した校内研修を行っている。人権課題に関する最新の資料や実践事例の確認、教員の人権意識の自己点検などを行っている。

3 教室環境

児童が集中して学習に取り組めるよう、教室の掲示物を全学級で統一している。「特別の教科 道徳」「学級活動」では、毎回の板書を「学びの足跡」として残し、教室後方に掲示している。

これにより、「特別の教科 道徳」の授業で考えた内容項目について、児童一人一人が日常生活の中で改めて意識することができた。また、これまでの学級会を振り返り、よりよい話し合い活動に向けての改善へとつなげることができている。



研究の成果（○）と今後の課題（●）

【児童の活動の充実】

○金管マーチングバンド活動やたてわり班活動など意図的に異学年や特別支援学級と交流する時間を設けることで児童が友達と関わることのよさに気づき、活動を通して自分のよさに気付くことにもつながった。

●朝の活動にも「六瑞タイム」を設定しているが、「研究こころのアンケート」の結果では、項目ごとに数値が伸び悩んでいる児童もいることが分かった。今後も個に応じた手立てを整理し、実践していく必要がある。

【授業の充実】

○授業内での「六瑞タイム」の設定など、話し合い活動を重視してきたことで、相手の話をよく聞くことができるようになり、他者理解が深まってきていることが「研究こころのアンケート」の結果から数値として確認できた。

●2年間の研究を通して目指す児童の姿は、児童自らがめあてや課題を基に話し合い、学習計画を立て、協働的な学習を行うというもう一段階進んだ段階である。今後も課題解決のために、話し合いをどのような場面で活用すればより有効なのかを学び、思いや考えを伝え合って学びを深めていける児童の育成を目指していく。

【教員の人権意識の向上】

○校内研修や皮革工場、食肉市場の見学、他の人権尊重教育推進校の研究発表や研究授業の参観は大きな学びになった。その学びを生かし、人権課題に対する正しい知識を得る機会となり、指導に生かすことができた。

●自主的な研鑽を深め、我々教員自身が自分事として捉えられるようにしていく。

指導していただいた先生方

中学年 特別の教科 道徳

講師 赤堀 博行 先生

帝京大学 教育学部 初等教育学科 教授

すずらん学級 生活単元学習

講師 長谷川 かほる 先生

東京未来大学 こども心理学部 特任教授

低学年 特別活動 学級活動(1)

講師 若林 彰 先生

学校法人三浦学園 有明教育芸術短期大学 学長
品川学芸高等学校 校長

高学年 総合的な学習の時間 社会科

講師 神山 直子 先生

国立音楽大学 音楽学部 非常勤講師
元東京教育庁指導部 主任指導主事

